

変わやがトカラ情報

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771

一隅を照らす十島の教育

十一月…自尊の秋

十島村教育長 原口 英典

わが村の教育委員会事務局の出入りに「一隅を照らす十島の教育」という掲示板を設置している。

そこには、七つの島にある各小中学校が、毎月発行している「学校だより」や「児童生徒会新聞」を、発行されるごとに掲示している。そして空いたスペースには、季節や月にちなんで、私が心動かされた「俳句」も貼付させてもらっている。

通りすがりに置かれている掲示板なので、なかなかゆっくりと各学校の掲示物や俳句を読む人も少ないのではないかと思います。先日ある人が入り口に立って、メモ帳に何やら書いておられるところに出くわした。

「学校だより」や「児童生徒会新聞」の中身の濃さや出来栄のよさに係るお褒めの言葉をいただきながら、国境ラインにある十島の歴史や現状、また離島としての十島の教育に大いに興味・関心を持ってもらえることのお話も伺うことであった。

そして、話は弾み、掲示してあった俳句の3句の一つに及び、それは初めて目にする句であったらしく、口ずさみながらメモを取られた。

「いいですなあ、『一天(いってん)自尊(じそん)の秋』ですか。いいですなあ。ああ、飯田蛇笏の俳句ですか。『誰彼も あらず一天 自尊の秋』いやあ、いいですなあ。私は、今年80になりますが、農業だけやってきました。このただ一天のもとで、農業をやってきましたが、秋は、まさに自尊の季節です。言い当てて妙です。自尊です。いやあ、素晴らしい一句に出会いました。

年を取るにつれ、いよいよもって好奇心を持たないといかんなあと思っているものですが、たまたま、ここに立ち寄りさせていただきましたが、また、寄らせてください。子どもさんや先生方にもどうかよろしくお伝えください。」美礼のもと、その場を立ち去って行かれたその方の後姿を見送るのであった。

農業一筋に生きてこられた方の、「好奇心」に裏打ちされた教養の高さと深さ、礼儀正しさに心ほのぼのとするひとときであった。

生きる根っこに据えるもの、それは、未知・無知を自覚する謙虚な探究心としての「好奇心」であり、人としてその「好奇心」を育みつつ、いつまでも持ち続けたいものの一つである。

乱菊や わが学問の しづかなる (青邨)

【第65回人権週間 12月4日～10日】

世の中には、大切にしたい様々な人権があります。それは、人間が生まれながらに持つ権利であり、日常の思いやりの心、思いあう心によって守られるものです。この週を機に、身近な人権について、考え行動してみましようか。

みんなで築こう
人権の世紀
考えよう相手の気持ち
育てよう思いやりの心

【コンクール受賞】

日本昆虫協会主催 夏休み昆虫研究大賞
＜悉石島小学校＞
優秀賞 & 昆虫王長畑直和賞 西 えほん(小3)

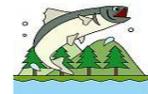
第81回全国書画展覧会
＜宝島小学校小宝島分校＞
筆都大賞 森 清香(小3)
特選 森 文音(小6)

灯 シリーズ——十島の学校にやってきて 宝島小学校1年 今村 賢人

ぼくは、たからじま小学校一年の今村けんとです。四月におかあさんのおしごとについてきました。かごしまをはなれるときは、「おとうさんだいじょうぶかなあ。おともだちとはなれてさみしいなあ。みんなとはなれてさみしいなあ。」とおもいました。「たからじまってどんなところかなあ。」といろいろかんがえてフェリーにのりました。フェリーの中では、本をよんだり、ごはんをたべたり、あそんだりしました。つぎの日のおひるにたからじまにつきました。たくさんの人がむかえてくれてうれしかったです。

たからじまでは、学校にまいにちみんなといっしょにあるいていきます。学校でたのしいことは、ひる休みにみんなであそんだり、きゅうしょくをたべたり、せいかつでいろんなものをつくったりすることです。休みのときは、コミセンやこうえんであそんだり、う

みにつりにいったりします。休みの日もみんなといっしょにあそんでいます。たからじまでお気に入りのあそびは、さかなつりとすな山であそぶことです。うみがきれいでさかながおよいでいるのを見ながらさかなつりができます。すな山は、五メートルいじょうあるすな山です。足がすなにもれて、上までのぼるのがたいていへんです。



かごしまではできなかったことを、たからじまでたのしんでいます。

たからじまのせいかつはとってもたのしいです。

絆 シリーズ——山海留学生として学ぶ 成長した自分 ② 志方 悠希 現在高1年生<鹿児島市>(諏訪之瀬島)

でもやはりぼくがこれほど経験することができたのは、自分一人の力ではないと思う。

まず島民の方々がいる。島の歴史から生息している生き物までたくさんのことを教えてもらった。さらに一緒に住んでるかのようにつけてくださりとても楽しい島生活を送ることができた。



そして、島に送り出してくれた親や毎日お世話になっている里親がいる。ぼくの親はぼくを信じて島に行くことを許してくれた。だから親には感謝している。里親はぼくを四年間も面倒見てくれた。ぼくを本当の子どものように優しく、時には厳しく接して下さった。本当に島に来てよかったと思えた。



そして、一緒に努力を続けてきたみんながいる。まるで兄弟のような存在だった。一緒に遊び、勉強をし、スポーツをして楽しい思い出を作ってくれた。かけがえない永遠の友達だ。

他にもぼくは自分の知らないところで様々な方々からも支えてもらった。改めて、振り返ってみるとぼくのためにこんなにもたくさんの人が動いてくれているのだと感じる。

今、全ての人に支えてもらっていることを感じながら、島を元気よく旅立っていきたい。また、島で学んだ自然の大きさを多くの人に伝えていきたい。

【子どもたちの作品】 (弁論大会小学部優秀賞) みんなそろって福徳家 ② 平島小学校3年 福徳 凌牙

そして、ぼくはママとじゅれんにだきつきたかったけどやめました。そしてカーネーションをわたすとうれしがっていました。パパもうれしがってみんなうれしがってました。そしてママにおみやげをもらいました。ぼくはすごくうれしかったです。みんなそろったら家もちらかるけれど本当にみんなそろえばにぎやかになります。



もうじゅれんがケガをしないようにしようと思、またじゅれんが車にのったのでちゅう意したのですがやめなかったのでパパに言うやめました。そして、一っしゅん家族バラバラになるのかなと思いました。



家族みんなですごすことが一番楽しいです。なぜなら、みんながいたらあん心して楽しくすごすことができるからです。

だから、みんなそろったら楽しくらせるのだと思いました。もうケガをしないでだれともはなれたいです。

これからも、パパとママと兄弟みんなできよう力して毎日楽しくすごせるようにしていきたいです。また少しでもパパとママの手つだいをして、そしてパパとママをたすけられるようにしていきたいです。

十島村の小・中学校からのメッセージ ②

宝島小学校小宝島分校 教諭 下戸 勇介

「教育の原点は島にあり」私の父がいつも言っていました。父も母も元教育者の私は、幼い頃から両親に島の教育の魅力について話を聞いていました。父は三島村の黒島で、母は十島村の中之島で教鞭をとっていました。当時の島の様子を記録した写真や書類を取り出して見ると、



「この頃はね・・・」と父母それぞれの自慢話が始まります。が、今ではその中に私の話が割り込みます。負けません。「うちの島ではね・・・」と、あたかも自分の故郷のように小宝島について語っています。

前述した父の言葉ですが、少しずつ理解できてきました。この島では、子どもたちとの距離がとても近く、まるで家族のようです。休日、家で一息いれていると、「先生、海で泳ぎたいんですけど、連れてってください」「先生、島一周走りましょよ」と、子どもが私を誘いに来てくれることもあります。教師と子どもが共に時間を共有し、学び合い、語り合う、素晴らしいことだと思っています。少ない人数の子どもたち一人一人と向き合い、そして地域の方々との教育について考える、そんな環境がこの十島村にはあると感じています。



教員仲間である「あなた」への私からのメッセージ



学校と家庭と地域が連携しなければ子どもの教育は成り立ちません。この三つが一体となって日々の生活を過ごしている十島の現状、教師は地域の一員として行動し、地域も積極的に学校行事に関わっていただける、誰もが「子どもたちのために」という強い思いを持っているように感じます。鹿児島県内、いや全国の人たちに、この十島村の素晴らしさを伝えたいと強く思うことです。